

## トラック輸送情報（平成27年2月分）

平成27年5月12日  
総合政策局 情報政策課 交通経済統計調査室  
担当：廣中、桑原 内線28723  
直通：03-5253-8346  
<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

### 1. 特別積合せ貨物

#### (1) 本月の概況

調査対象24社の本月の輸送量は、4,812,178トンで、前月と比べ総輸送量が約84千トン増加したため、前月比101.8%（季節調整済み97.0%）となり、前年同月との比較では、約330千トン減少したため、前年同月比93.6%の実績であった。

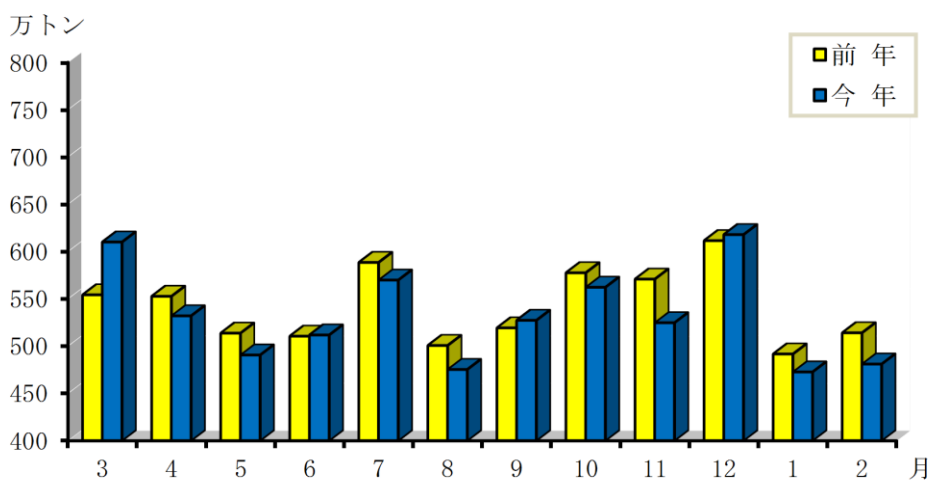
なお、平均稼働日数は22.6日で、前月と比べ0.3日増加し、前年同月との比較では、0.1日増加であった。稼働1日当たりの輸送量は、212,928トンで、前月と比べ約1千トン増加したため、前月比100.4%となり、前年同月との比較では、約16千トン減少したため、前年同月比93.2%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

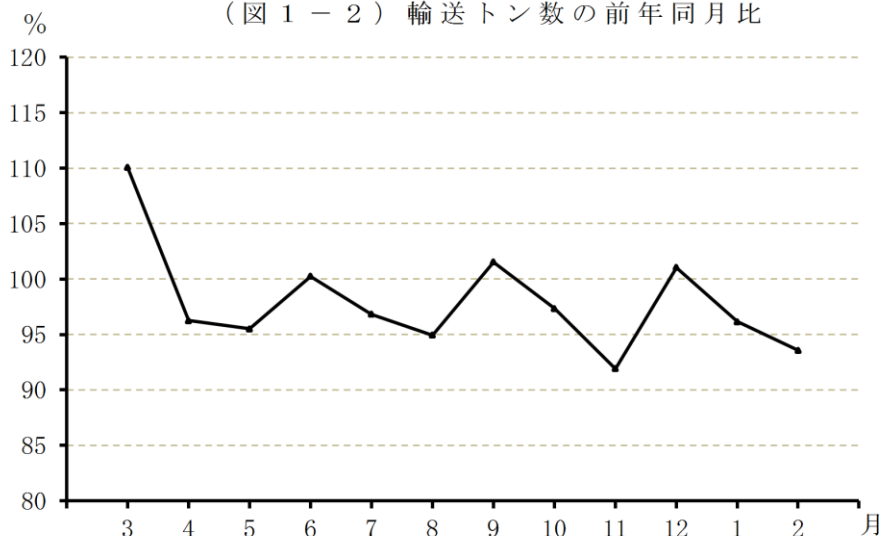
注）平成25年2月から貨物輸送の調査対象については、24社となった。

前月比及び前年同月比は、24社ベースで比較している（図1-1及び図1-2は24社ベースで作成）。

（図1-1）輸送トン数の推移



（図1-2）輸送トン数の前年同月比

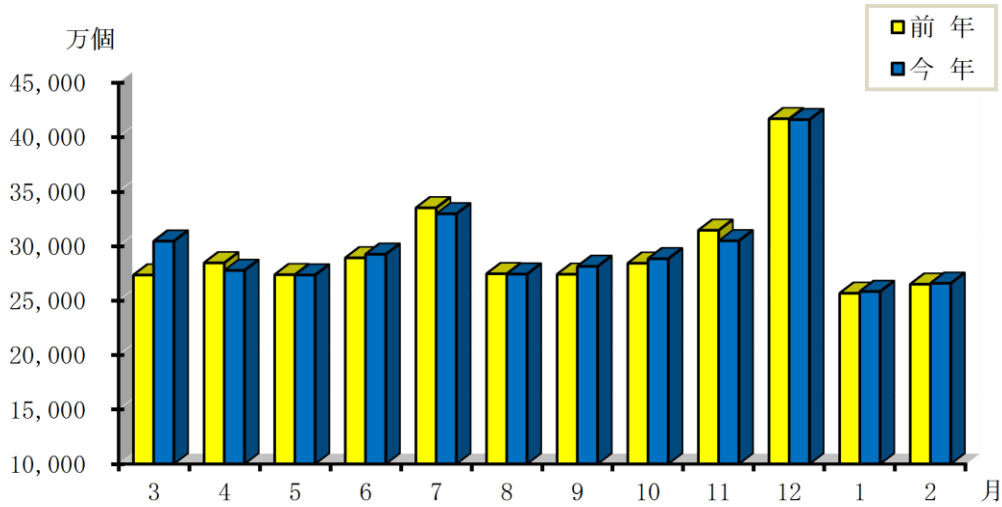


(2) 宅配便の概況

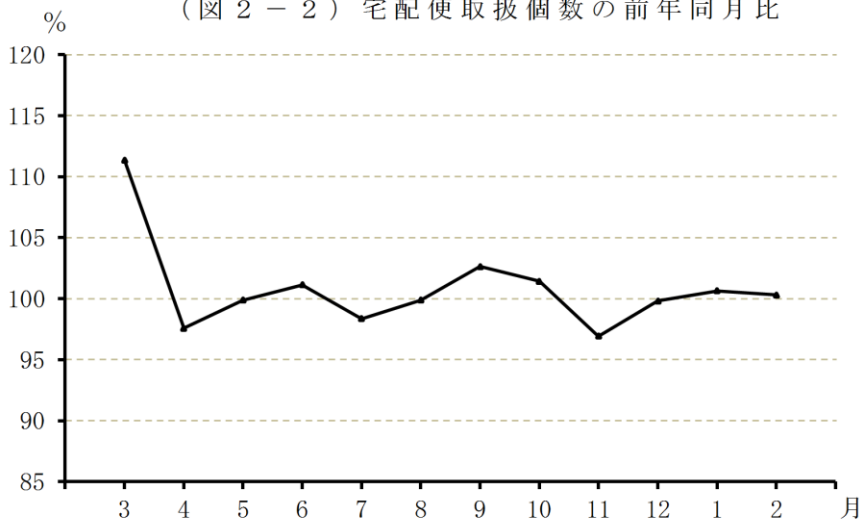
調査対象 14 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、約 265,789 千個で、前月と比べ 約 7,471 千個増加したため、前月比 102.9% (季節調整済み 98.6%) となり、前年同月との比較では、約 838 千個増加したため、前年同月比 100.3% の実績であった。

(図 2-1、図 2-2 参照)

(図 2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

調査対象 25 社 (24 社及び品目別・地域別輸送状況回答 1 社) は、前月と比べると、「食料工業品」及び「日用品」で、輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。増加要因としては、工場・生産地からの貨物増が「食料工業品」及び「化学工業品」で見られた。「化学工業品」の主な増加地域は、「関東」であった。

前年同月と比べると、「日用品」で輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。主な減少要因は、工場・生産地からの貨物減で、主な減少地域は、「関東」であった。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 25社)

品目	増減事業者数					主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※増減要因
	著増	増	変らず	減	著減			
前月比	農水産品	1	2	11	3	1		
	金属製品		2	18	1			
	機械		4	15	1			
	化学工業品	1	5	13	3		関東	4, 7
	繊維工業品		2	17	3			
	食料工業品		4	14	1	1	その他の食料工業品	4
	日用品		6	13	3		その他の日用品	
	その他		2	13	6		その他(百貨店配送品)	8
前年同月比	農水産品		2	11	4	1		4
	金属製品			15	5	1	大阪	4
	機械		2	11	7		神奈川	4
	化学工業品		1	14	7			
	繊維工業品			18	4			
	食料工業品		1	14	4	1		
	日用品			12	10		その他の日用品	関東 4
	その他	1	2	9	8	1	その他(百貨店配送品)	

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらを除く府県、九州は沖縄を含む)]単位である。  
なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

※増減要因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

## 2. 一般貨物

### (1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者(本月の回答事業者 805 社/調査対象事業者数 1,023 社)の輸送量は、前月比 99.8%、前年同月比 98.6%であった。

### (表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北 信	陸 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	98.6 %	97.5 %	99.1 %	101.8 %	94.4 %	100.9 %	97.6 %	96.5 %	101.2 %	99.0 %	111.4 %	
前 月 比	99.8 %	95.0 %	97.7 %	104.4 %	97.9 %	102.7 %	102.5 %	102.0 %	104.0 %	102.1 %	117.0 %	

### (2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況(各運輸局より回答のあったもの)

北海道	<p>本月の輸送については、対前月比 95.0%、対前年同月比 97.5%であった。品目別では、工場・生産地からの貨物増により「石炭」が、また、「金属製品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、建設関連の需要減により「砂利・砂・石材」、「その他の窯業品」が、天候の影響により「廃棄物」が、季節的需要減により「その他の石油製品」が、また、「紙・パルプ」、「取り合わせ品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降ともほぼ横ばいが予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送については、対前月比 97.7%、対前年同月比 99.1%であった。品目別では、「穀物」、「その他の製造工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、「水産品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月は増加傾向、以降はほぼ横ばいが予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送については、対前月比 104.4%、対前年同月比 101.8%であった。品目別では、「機械」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月は増加傾向、以降はほぼ横ばいが予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送については、対前月比 97.9%、対前年同月比 94.4%であった。品目別では、「紙・パルプ」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、建設関連の需要減により「金属製品」が、また、「野菜・果物」、「鉄鋼」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月は増加傾向、以降は減少傾向が予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送については、対前月比 102.7%、対前年同月比 100.9%であった。品目別輸送量の増減およびその理由に関する記述は、特段の報告がなかったことから記載していない。今後の輸送見通しについては、次月は増加傾向、以降はほぼ横ばいが予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送については、対前月比 102.5%、対前年同月比 97.6%であった。品目別では、「機械」、「その他の製造工業品」、「取り合せ品」が増加したと回答する事業者があった。一方、「非鉄金属」、「その他の窯業品」、「紙・パルプ」、「日用品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送については、対前月比 102.0%、対前年同月比 96.5%であった。品目別では、「金属製品」、「機械」、「その他の化学工業品」が増加したと回答する事業者があった。一方、「食料工業品」、「廃棄物」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月は増加傾向、以降は減少傾向が予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送については、対前月比 104.0%、対前年同月比 101.2%であった。品目別では、季節的需要増により「野菜・果物」が、工場・生産地からの貨物増により「金属鉱」、「機械」、「紙・パルプ」が、建設関連の需要増により「機械」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、建設関連の需要減により「廃棄物」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送については、対前月比 102.1%、対前年同月比 99.0%であった。品目別では、季節的需要増により「野菜・果物」が、また、「砂利・砂・石材」、「金属製品」、「セメント」、「化学肥料」、「紙・パルプ」、「日用品」、「廃棄物」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、「木材」、「その他の窯業品」、「動植物性飼・肥料」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降は減少傾向が予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送については、対前月比 117.0%、対前年同月比 111.4%であった。品目別では、建設関連の需要増により「鉄鋼」、「機械」が、商社・問屋からの貨物増により「水産品」、「鉄鋼」、「金属くず」が、倉庫への入出庫増により「日用品」、「その他の製造工業品」が、季節的需要増により「その他の農産品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、輸出入の貨物減により「木材」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>

## (3) 運輸局別、品目別増減状況（対前月比）

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
品目		海	北	東	陸	部	畿	国	国	州	縄	国
		道			信							計
1. 穀物	増	1	2								1	4
	減	1			1					1		3
2. 野菜・果物	増		1					1	7	5		14
	減		1		2				3	3		9
3. その他の農産品	増	1									3	4
	減	2								1		3
4. 畜産品	増		1									1
	減		1							2		3
5. 水産品	増								1	1	1	3
	減	1	2						1			4
6. 木材	増	1			1			1	1	1		5
	減	2	1		1			2	1	4	2	13
7. 薪炭	増											
	減											
8. 石炭	増	2										2
	減		1									1
9. 金属鉱物	増								2			2
	減		1									1
10. 砂利・砂・石材	増	2	1	1	1			1	2	5		13
	減	8	2			1		2	2	1		16
11. 工業用非金属鉱物	増	1	1						1			3
	減	1	1						1			3
12. 鉄鋼	増							2	2	1	2	7
	減		1	1	2			1	1			6
13. 非鉄金属	増				1							1
	減						1					1
14. 金属製品	増	2			1	1	1	2		3		10
	減		1		3		1				1	6
15. 機械	増		2	2		1	1	4	6	3	1	20
	減		1						2	2		5
16. セメント	増	1			1	1			2	4		9
	減	1	1						1	2		5
17. その他の窯業品	増					1			1			2
	減	2					1		1	2		6

運輸局		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
品目	増			1				1				2
	減		1		1							2
19.その他の石油製品	増	1			1			2	2	1		7
	減	4						1				5
20.コークス・ その他の石炭製品	増											
	減				1							1
21.化学薬品	増											
	減							1	1			2
22.化学肥料	増			1	1				1	3		6
	減				1					1		2
23.その他の化学工業品	増				1			3				4
	減		1					1		1		3
24.紙・パルプ	増		2		2				5	2		11
	減	2	1				1	1	1		1	7
25.繊維工業品	増											
	減											
26.食料工業品	増	2	2				2	1		2		9
	減	1	2	1			2	4	1	1	1	13
27.日用品	増			1	2		1	1	4	3	1	13
	減	1	1		1	1	2		3			9
28.その他の製造工業品	増		3		1	1	1	1			1	8
	減							1				1
29.金属くず	増		1								1	2
	減											
30.その他のくずもの	増		1									1
	減								1	1		2
31.動植物性飼・肥料	増	1	2						1	1		5
	減	2	1							4		7
32.廃棄物	増	4	2						2	2		10
	減	6	2					2	3			13
33.輸送用容器	増									1		1
	減				1				1			2
34.取り合せ品	増						1	1	1	1	2	6
	減	2	1					2			1	6
35.その他	増	3	1	1	3		5	3		5		21
	減	3	1	2	4		3	1		5		19